

心情読解プログラム「人の心を想像し、自分の生き方を考える」

キット00：はじめに・使い方

- 著者：秋元進吾
- 対象の目安：小学校高学年～中学生
- 構成：全7時間（1コマ45分想定）＋配布ワークシート・読み上げ原稿つき

1. このプログラムについて

本キットは、5つの物語を通して「登場人物の心情を想像する力」を段階的に育てる、全7時間の読解プログラムです。

学校の教科書の学年配当には縛られない、**塾・家庭学習・自由授業（フリースクール・オンライン授業・親子読書会など）**向けの教材として設計しています。扱う作品の教科書配当は小2～中2までまたがっており、特定の学年の授業ではなく「心情を読む」という一本のテーマで作品を選んでいるためです。

対象の目安と各作品の教科書配当

対象の目安：**小学校高学年～中学生**（各作品の教科書配当は下表参照）

作品	作者	教科書配当（参考）	本プログラムでの扱い
ごんぎつね	新美南吉	小学4年（3社とも）	第1時
大造じいさんとガン	椋鳩十	小学5年（3社とも）	第2時
注文の多い料理店	宮沢賢治	小学5年（現在は東京書籍のみ）	第3時
雪女	小泉八雲（再話）	小中の教科書に定番配当なし	第4時
走れメロス	太宰治	中学2年（4社とも）	第5・6時
スーホの白い馬	モンゴル民話（大塚勇三・再話）	小学2年（光村図書のみ）	発展教材（本編7時間には含みません）

※著作権について：本文を掲載する練習帳・サイト版で扱う6作品（『大造じいさんとガン』を『手袋を買いに』に、発展の『スーホの白い馬』を『蜘蛛の糸』に差し替えた構成）は、**2026-07-20時点で青空文庫収録＝著作権保護期間満了を確認済み**です（『雪女』は田部隆次訳）。『大造じいさんとガン』『スーホの白い馬』

は保護期間中のため本文掲載はできません（本キットは本文非収録のため、この2作品を使った授業・家庭学習は問題ありません）。

※教科書配当は2026年7月時点で、各教科書会社の公式資料（教材出典一覧・年間指導計画）を確認したものです。小学校国語は東京書籍・教育出版・光村図書の3社、中学校国語はこれに三省堂を加えた4社が発行しています。改訂で変わることがあります。

※「**習っていない**」学習者がいても自然です。『注文の多い料理店』は現在3社中1社（東京書籍）のみ、『スーホの白い馬』は光村図書のみの掲載です。使う教科書によって出会う作品は変わるので、あらすじの確認から入ると安心して始められます。

※教科書配当はあくまで「学校ではその学年で扱われることが多い」という参考情報です。本プログラムでは、既に学校で読んだ作品を「心情読解」の視点で読み直すこと、まだ出会っていない作品を先取りして読むこと、いずれも学びとして有効と考えています。

2. プログラムの狙い

- 物語を丁寧に読み、登場人物の行動や心情を想像できるようになる。
- 登場人物の気持ちの変化を、本文や自分の経験と結びつけて考えられるようになる。
- 読み取ったことを自分の言葉で表現し、他の人と共有できるようになる。

心情の「幅」を段階的に広げる流れになっています。

誤解される悲しみ（ごん）→ 敵への敬意（大造じいさん・残雪）→ 不安と恐怖（紳士）→ 約束と裏切り（雪女）→ 友情と信頼（メロス）

発問は必ず「なぜ？」で深掘りし、学習者が自分事として考えられるように配置しています。最後は自己表現につなげて締めくくります。

3. 7時間の全体像

時間	教材	焦点となる心情
第1時	『ごんぎつね』	伝わらない気持ち
第2時	『大造じいさんとガン』	敵への敬意
第3時	『注文の多い料理店』	不安と恐怖
第4時	『雪女』	約束と裏切り
第5時	『走れメロス』 前半	友情と信頼（信じる側・預ける側）
第6時	『走れメロス』 後半	絶望から希望へ
第7時	まとめ	5作品の心情を振り返り、自分の生き方につなげる

各時間は45分を想定し、導入（5分）→展開（30分）→まとめ（10分）の共通構成です。

4. キットの構成と使い方

ファイル	内容	主な使いどころ
キット00（本書）	狙い・対象・全体像・使い方	最初に読む
キット01	単元計画表・単元目標・評価規準	全体設計の確認、指導計画づくり
キット02	各時の授業案（ねらい・時間配分・中心発問・板書計画・進行の流れ）	授業・学習会の準備
キット03	ワークシート（全時共通フォーマット＋各時版）	印刷して配布
キット04	導入読み上げ原稿＋展開部の対話例台本	そのまま読み上げて授業を進める
キット05	教材リストと選定基準	作品の差し替え・追加検討

使い方の例

- **塾・少人数クラスで**：キット02の授業案とキット04の原稿を使い、週1回×7回の読解講座として実施します。ワークシート（キット03）は毎回印刷して配布してください。
- **家庭学習で**：保護者がキット04の導入原稿を読み聞かせ、本文と一緒に音読したあと、ワークシートの3問（出来事→人物の気持ち→自分の考え）を親子で話しながら書きます。板書計画はノートの見開きに

写す形でも使えます。

- **自由授業・読書会**で：第7時の「一番心を動かされた人物は誰？」を軸に、複数回分をまとめて実施する運用も可能です。

実施上の注意

- 本文（各作品のテキスト）はキットに含まれません。市販の文庫・教科書・青空文庫などで各自ご用意ください。
- 発問への「正解」を求めるのではなく、本文を根拠に自分の言葉で考えを表現できたことを評価してください（評価規準はキット01参照）。
- 5つの物語は差し替え可能です。差し替え候補と選定基準はキット05にまとめています。

著者：秋元進吾